

2. 研究の詳細

プロジェクト名	20世紀前半のカナダにおける使用人の研究：移民問題と使用人の生活状況について		
プロジェクト期間	平成23年度～平成24年度		
申請代表者 (所属講座等)	西村 美保	共同研究者 (所属講座等)	

平成24年度の本研究の詳細は以下のとおりである。

研究の目的

本研究は20世紀前半のカナダにおける使用人の生活実態を明らかにすることを目的とする。明らかにしたい点は2点あり、まず、外国から移住してきた使用人のうち、どの程度連合王国出身者がいたのか、そしてどのような経緯で彼らがカナダに移住してきたのかということである。2点目は移民で、かつ使用人という低い身分にある労働者がカナダにおいてどのような扱いを受け、また移民使用人たちが自分たちの仕事や身分についてどのような認識を持っていたのかという点である。さらに女性使用人であれば、移民、使用人、女性という3重のハンディキャップを負っていたと思われるので、民族問題とジェンダーの観点からも、彼らの実態を明らかにすることは大変意義深いと言えるだろう。カナダという国の文化を研究する際、使用人という職業に焦点を絞った研究は国内では珍しく、非常に特色有る研究になると思われる。

研究の内容と方法、実施体制等について

本研究は、申請代表者が単独で行う研究であり、上記研究目標を達成するためにすべき研究内容と方法としては、下記のテーマについて関連文献を収集し、情報の整理と分析を行い、上記の研究目的で書いた観点から考察を行うというものである。

1. カナダへのイギリス移民の歴史
2. 外国から移住してきた使用人のうち、どの程度イギリス人がいたのか、そしてどのような経緯で彼らがカナダに移住してきたのか
3. 移民で、かつ使用人という低い身分にある労働者がカナダにおいてどのような扱いを受け、また移民使用人たちが自分たちの仕事や身分についてどのような認識を持っていたのか

実施計画に対する研究の進捗状況

平成23年度は主に上記1. 及び2. に関連する資料の収集、整理、分析を行った。

平成24年度は引き続き1. 及び2. の研究を継続し、更に3. の研究を重点的に行った。

平成24年度実施による研究成果

研究成果としては、本研究開始までは、イギリス国内の使用人について研究していたが、本研究によって使用人の需要が供給を上回る状態がイギリス以外の国でも起きていたこと、そのためにイギリスから使用人を移住させる政策が取られたことなどを知り、グローバルな視点で使用人の問題を考察することができるようになったことである。具体的には、19世紀から20世紀前半にかけて、カナダだけでなく、オーストラリアなどの外国においても、使用人が不足する状況があり、イギリスから使用人を呼び寄せたことが分かった。そして、本国イギリスにおいて、19世紀後半には既に使用人に対する人気が見せていたが、そのことも外国でも同様であり、その背景には産業の機械化による職場の多様化があった。使用人に対する需要の高まりが使用人の

移住を促し、19世紀後半から20世紀にかけて、使用人の移動はグローバルな展開を見せたが、どの国も使用人文化の衰退を止めることはできなかった。

1. 移民と農業

Stanley C. JohnsonのA History of Emigration: from the United Kingdom to North America 1763-1912によれば、男性が支援を受けてイギリスから外国へ移住するには、農夫か農業者である必要があり、妻も夫に協力して農業をすることを必要とされた。従って、家事使用人でさえも農作業をしなければならなかった。また、Women, Gender and Labour Migrationによれば、イギリスのほかの地域に比べて、スコットランドの女性はより積極的に農作業や家事奉公のために家を出たいと考えていた。そして、20代半ばに結婚するまでそうした仕事を続けていた。

2. イギリスから海外の移住

家事使用人不足はカナダだけでなく、オーストラリアなどでも発生していたので、19世紀にオーストラリアの植民地にかなりの数の女性が移住している。政府の支援のもと、独身のイギリス女性が何人か1830年代からNew South Wales(ニューサウスウェールズ—オーストラリア南東部の太平洋岸の州) やVan Diemen's Land (ヴァン・ディーメン島—Tasmaniaの旧称) に移住している。しかし、1850年代 - 60年代までオーストラリアへの移住はそれほど勢いがなかった。

1860-1900年の間に、90,000人もの独身のイギリス人女性がオーストラリアの植民地に渡った。

New South Wales : 18,000人	Victoria : 13,000人
South Austraria : 9,100人	Queensland : 46,000人
Western Austraria : 1,700人	Tasmania : 1,600人

オーストラリアで家事使用人が不足していた背景として、植民地の女性が工場で働くことを好んでいることを理由に挙げられている。このことは本国イギリスでも、同様であり、産業革命によって多数の工場が出現して、職場が多様化すると、19世紀後半に既に、家事奉公に対する人気は陰りを見せ始めた。従って、オーストラリアにおける同様の例は家事奉公衰退がグローバルなものであったこと、そこには、明らかに産業の機械化という大きな歴史の流れが関わっていることが見てとれる。

オーストラリアでは、次のような家事使用人不足の解決策が考え出された。

- ① 地方の若い女性を訓練する。
 - ② すでに仕事のできる使用人を呼ぶ。
- ②のほうがコストがかからないため、移民の多くを支援して連れて来た。

植民地の政府は女性の移住や移住後の生活も支援しなければならなかった。家事のできる独身女性に家事使用人としての職を紹介し、食事や住まいを与えていた。「家事ができる」ということが女性の重要な特性／徳行となった。家事使用人以外の女性がすぐには自分の居場所を見つけられないため、植民地における家事労働の差し迫った必要性が植民地政府が女性を移住させる唯一の弁明となった。ところが、移住した女性が結婚した場合、以下のような問題が発生した。①雇える女性の数が減る。②新しい家族が生まれ、さらなる家事使用人の需要増加となる。従って、1850年代のタスマニアにおいては、雇用契約終了前に結婚した移民女性は、期間終了まで働くことを義務化された。そして、他の植民地では、決められた期間、女性使用人として働かないと、移住にかかった費用を返す必要があった。このほかにも、イギリスからニュージーランドや南アフリカへ移住した者もいた。20世紀前半、Transvaal (南アフリカ共和国北東部の旧州) へイギリス人の独身女性を移

住させた。これは、黒人男性を家事奉公から鉱山労働へ変えさせるためであり、イギリスの白人女性が代わりに男達の仕事をした。

3. カナダへの移住

Migration and Empireによれば、第1次世界大戦後イギリス政府が国庫補助の移住政策を復活させた。この時移住した人々は86,000人以上であり、そのうち約3分の1 (26,905人) が、カナダへ渡った。New Brunswick(ニューブランズウィック—カナダ南東部の州)とthe prairie provinces (プレーリー諸州—カナダのManitoba, Saskatchewan, Alberta州の総称; 穀倉・油田地帯)における援助された移住・定住プログラムによると、20,000人の若い女性が家事使用人としてカナダへ渡った。19世紀を通じて、カナダへの多くの移住は土地の開拓に結び付けられる。小売商や家事使用人は、良い賃金や社会的平等という甘い言葉によって誘惑されていたが、農業をする機会が与えられることも強調された。

4. 経済発展と家事使用人の需要

経済が発展するにつれて、ますますサービス労働者は求められた。特に、他の西洋社会のように、カナダが都市化したとき、多くの需要があった。

1946-1961年	農業者	(労働人口の)	25%→11% (ダウン)
	工場労働者		25-26% (維持)
	サービス業者		17%→26% (アップ)

5. 家事使用人としての移住

中流階級の移民とは異なり、家事使用人は政府助成の移住を利用することができた。両世界大戦間にも、100,000人のイギリス人女性が支援を受けて移住した。

→目的：良い職と高い賃金を得る。

20世紀後半、使用人たちは、家事奉公は移動や良い職のための便利な架橋であるという認識をもつようになったが、それに加えて、以前よりも服従的でない態度を取るようになった。

→1950年代前半

イギリス人の使用人に無料の移住や1年契約を提供する一時的な計画が、休みなく働く事務や工場の雇用者をひき付けた。彼らの優先事項は、戦後の質素な生活から逃げ出し、移住後はできるだけすぐに家事奉公をやめることであった。

6. 19世紀のカナダでは...

家事使用人移民の最初の波は主にアイルランドからだった。1900年までに、アイルランド人女性移住の人口よりも、イングランドやスコットランドの女性の人口が上回っていた。

UK移民の60% : English / 29% : Scottish

中心都市部だけでなく、田舎でも使用人を探していた。

イギリスとアイルランドだけでも、20世紀前半のカナダの家事使用人移民の4分の3以上を占めていて、170,000人以上が1900-1930年にカナダに来ている。

7. 「使用人問題」

使用人たちが移住した先の外国では、様々な問題が発生した。雇い主はいいかげんな、あるいは貪欲なエージェントや無責任な移民のせいで苦しんでいた。彼らは移住してきた使用人の不足によって賃金を高値で

払わなければいけなかった。一方で、イギリスからの独身女性移民は、彼女らに対する雇用主の期待が誤った形で高まっていると感じ、不満を言った。家事使用人のイメージは働く国が変わっても、同様のものであり、平等の地位が与えられるといった甘い言葉に誘われて移住してみたものの、実際には、本国同様、多くの女性使用人が「目に見えない存在」でしかなく、家事奉公は、私的空間の閉ざされたドアの背後で虐待される危険性をはらんだ仕事であった。そして、20世紀の未婚女性の雇用機会の広まりと家事奉公への嫌悪によって、本国イギリスにおいてさえ「使用人問題」(‘servant problem’) についての嘆きが拡大していった。

以上が平成24年度の研究成果の報告である。

参考文献

- Harper, Marjory and Stephen Constantine. Migration and Empire. Oxford: Oxford University Press, 2010.
- Johnson, Stanley C. A History of Emigration : F from the United Kingdom to North America, 1763-1912. New York: E.P. Dutton and Co., 1914.
- Sharpe, Pamela. (ed.) Women, Gender and Labour Migration : Historical and Global Perspectives . London: Routledge, 2001.

- 本報告書は、本学ホームページを通じて学内外に公開いたします。
- 本経費により作成された成果物や資料等については、必ず全て添付願います。
- 研究テーマが2ヶ年計画の場合は、本報告書を平成25年度審査会の判断材料の一つといたします。